



第18回 福岡市民病院の血液培養検査データ

1. 当院の血液培養検査データについて紹介

福岡市民病院における血液培養指標の推移

年	提出セット	複数セット採取率 (%)	陽性率 (%)	汚染率 (%)	血液培養提出率	延べ入院患者数
2021	1497	99.7	14.1	1.2	28.5	52498
2022	1722	99.4	14.1	2.2	33.9	50835
2023	1809	98.9	12.8	1.6	36.6	49387
2024	2165	99.2	13.8	1.6	36.9	58721

※データはJ-SIPHE還元情報より抽出

複数セット採取率 (%) = (提出セット数 - 1セットのみの提出セット数) ÷ 提出セット数 × 100

陽性率 (%) = 陽性セット数 ÷ 提出セット数 × 100

汚染率 (%) = 汚染セット数 ÷ 提出セット数 × 100

血液培養提出率 = 提出セット数 ÷ 在院患者延数 × 1000

血液培養検査数は増加傾向にあり、複数セット採取率は99%前後、陽性率は10~15%、汚染率は1~3%で推移しています。

福岡市民病院の血液培養検出菌上位5菌種

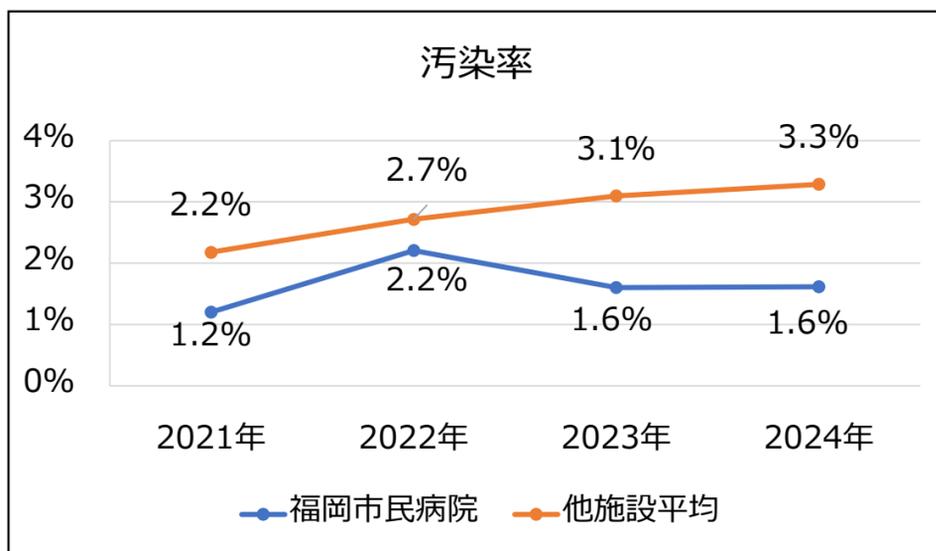
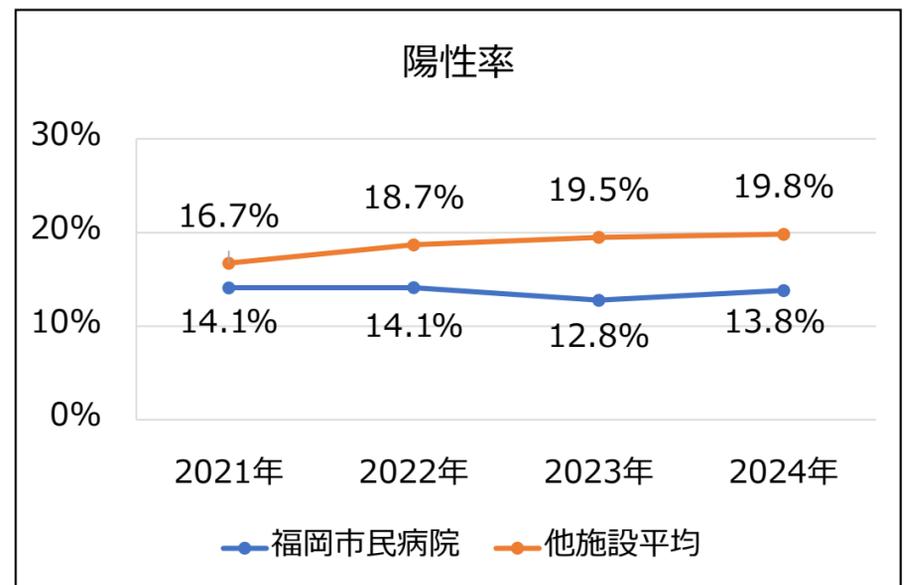
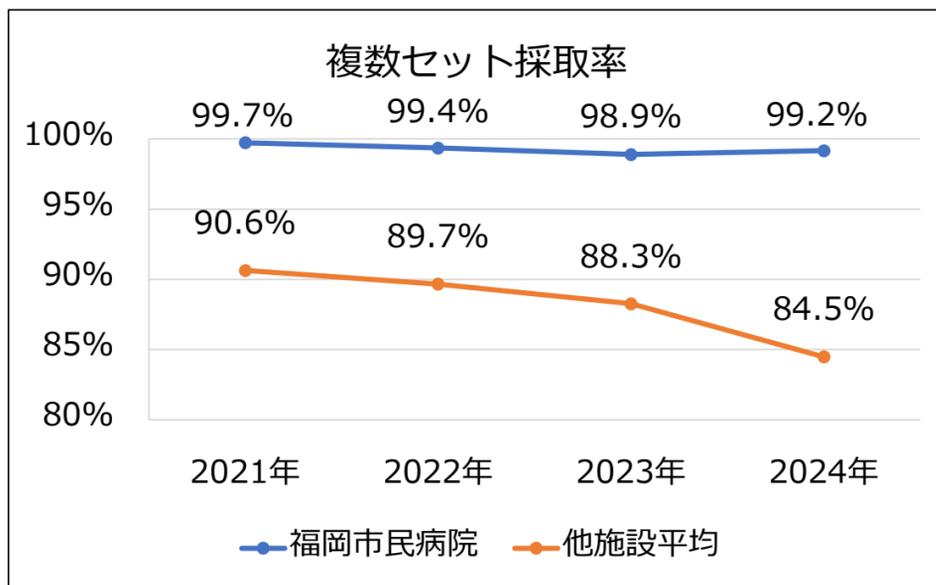
	1	2	3	4	5
2021年	大腸菌 (22.6)	黄色ブドウ球菌 (16.5)	肺炎桿菌 (12.6)	CNS (8.7)	緑膿菌 (6.5)
2022年	大腸菌 (28.1)	黄色ブドウ球菌 (16.7)	CNS (16.7)	肺炎桿菌 (6.5)	緑膿菌 (2.7)
2023年	大腸菌 (23.0)	黄色ブドウ球菌 (15.2)	CNS (12.5)	肺炎桿菌 (10.9)	<i>E. cloacae</i> (2.7)
2024年	大腸菌 (28.7)	黄色ブドウ球菌 (12.1)	CNS (12.0)	肺炎桿菌 (7.7)	<i>E. faecalis</i> (2.7)

※重複処理前、()内は割合%を表示

検出上位菌は各年で大きな変化はなく、大腸菌、黄色ブドウ球菌、CNS、肺炎桿菌が毎年上位を占めています。

2. 他病院の血液培養データとの比較

当院の血液培養データをJ-SIPHEの還元情報を用いて各医療機関の平均データ（15歳以上）と比較しました。



JANIS年報より血液培養検出菌上位5菌種（2023年）

2023年	入院	外来
1	大腸菌	大腸菌
2	黄色ブドウ球菌	肺炎桿菌
3	表皮ブドウ球菌	黄色ブドウ球菌
4	CNS	CNS
5	肺炎桿菌	表皮ブドウ球菌

当院の血液培養は他施設平均と比較して、「**複数セット採取率が高く**、**血液培養陽性率は低く**、**汚染率は低い**」ということが分かります。

また、検出菌に関しても全国の傾向と大差はありませんでした。

3. 血液培養検査における取り組み

当院では血液培養の採取に関して以下のような取り組みを行っています。

- 2セット採取の徹底
特別な理由がない限り、オーダーされる先生方には2セットの血液培養採取をお願いしています。1セットで採取されている場合には、ICTより確認を行っています。→**2セット採取率UP↑**
- 採取部位と採取した人の氏名の記入
血液培養のコンタミが疑われる場合に採血者に採取手技の確認、フィードバックを行っています。→**汚染率DOWN↓**

次回は「血流感染マネジメントバンドル」を紹介します。